

今日の聖書の箇所によると、主イエスは12弟子を宣教の旅に送り出した時、不思議な命令をくだされました。身軽な旅をなさい。つまり旅は軽装で、と言うのです。

杖もいない、袋もいない、お金もいない、パンもいない。これらのものは全部必要なし。何という不思議な命令でしょう。

当時杖は追いはぎにあった時には手頃な武器となりました。しかし神の国は暴力と無縁です。

袋は富の象徴でした。多くの人々は袋に入れる程の持ち物を持っていなかったからです。神の国は貧しい人々を差別する袋と関係ありません。

お金は言うまでもなく、人口のたった1%を占める上層階級の象徴でした。神の国そのような階層社会を否定します。

パンもお金と同じように裕福な人々の食べ物でした。普通の人々の食べ物といえば、せいぜい、いちじくの実と干し魚、それに種無しのパンほんの数切れというところだったのです。

杖と袋とお金とパン。これらはすべてこの世が最も大切なものとして追い求める武力と権力と富を象徴するものだったのです。

こう見てくると、主イエスの命令が常軌を逸したものでなかったことがわかります。主イエスの意図は明白です。この世が追い求める権力と富で人々の関心を買おうとしてはならない。

そして主イエスはもう一つの禁止命令を下されました。人々が福音に関心を示さなかったり、嫌がったりした時には、決して怒ったり、大声で反論したりしてはいけません。

考えるまでもなく、愛は強制できません。説得あるのみです。福音の宣教も同じです。福音の伝達には言葉と生き方で証していくより他に道はありません。

主イエスの命令は「してはいけません」という消極的なものばかりではありませんでした。「こうなさい」という積極的な面を含んでいたのです。それは非常に簡潔、明瞭なものでした。「病氣の人を癒し、神の国の到来を宣べ伝えなさい。」

宣教の目的は、人々の中の隔ての壁を切り崩し、エゴイズムと自己保存の落とし穴に落ち込んでいる人々を愛の力で癒してあげる、ということに尽きるのです。

この使命を受けて4人の漁師と、一人の収税人と7人の男達は、宣教の旅へと立ち上がったのです。

このエピソードは私たちに何を教えているのでしょうか。

教会の目的はただ一つ、それは神の平安と癒しと愛の証人となることです。これは2000年前と今と全く変わるところはありません。

私たちの教会は、神の国の到来の前兆となるというビジョンを与えられているのです。

私たちに、この世の権力はありません。権力の保持は福音の証人であることと無関係です。日米合同教会は小規模な教会です。しかし規模の大小は証人であることと関係ありません。

私たちに必要なもの、それはあの12弟子の後を追っていこうという信仰の一途さです。後は神が導いてくださいます。聖霊が風のように私たちの背中を優しく押してくれます。良い時も悪い時も、主イエスは私たちと歩みを共にしてください。

この確信こそ私たちの希望です。勇気と喜びの源です。私たちの中に本当の人間らしさを形成する人生の灯火です。